


KEIO 2020 project Yearbook 第三弾。プロジェクトの活動記録。

Phase #3

The climax of our journey.



KEIO 2020 project
④ 2020-2021 年



Phase #3

2022年2月号

KEIO 2020 project



✕ KEIO UNIVERSITY

KEIO 2020 project 最大の目標であった事前キャンプが無事に終了し、7年に及ぶ私たちの活動は、終わりを迎えようとしています。

これまで以上に「つながり」の大切さと、人とスポーツが持つ「力」の大きさを実感した、東京2020オリンピック・パラリンピック。この大会に携わった経験は、メンバーひとりひとりの学生生活において、大切な1ページとなりました。

活動を通して得たかけがえのない経験を、未来へつなげたい。そんな想いで、2020年・2021年の軌跡を振り返ります。

これまで KEIO 2020 project に携わってくださったすべての皆さまに、感謝を込めて。

Start!



集大成が今、ここに

Contents

05 2020-2021 ANNUAL CALENDAR

07 All about KEIO 2020 project

事前キャンプ前の活動

11 バリアフリーマップ in 日吉

13 事前キャンプに向けて

事前キャンプ中の活動

17 ようこそ！英国選手団

20 装飾紹介

22 Team GB交流会

事前キャンプ後の活動

24 経験を未来へつなぐ

27 特集～代表の1日～

29 代表インタビュー

34 終わりの言葉

35 クレジット

2020-2021 ANNUAL CALENDER

4/1~ 新歓活動

コロナウイルス感染拡大防止のため、全イベントをオンラインで開催。説明会や交流会だけでなく、クイズ大会や、メンバーから集めた有意義な大学生活を送るための情報を紹介する”大学生活のすゝめ”も実施。

12/11 ボランティア研修会

スポーツボランティアの心構えを学ぶ研修会を開催。講師は、各種スポーツイベント運営にボランティアとして携わる竹澤正剛さん。

JUN

APR

FEB

DEC



MAY

MAR

JAN

NOV

6/6 港北国際交流ラウンジ 国際理解イベント

英国をテーマにした国際交流イベントに参加。KEIO 2020 projectの活動紹介や英国×スポーツをテーマに講話を行う。

2/28 アスリートトークイベント

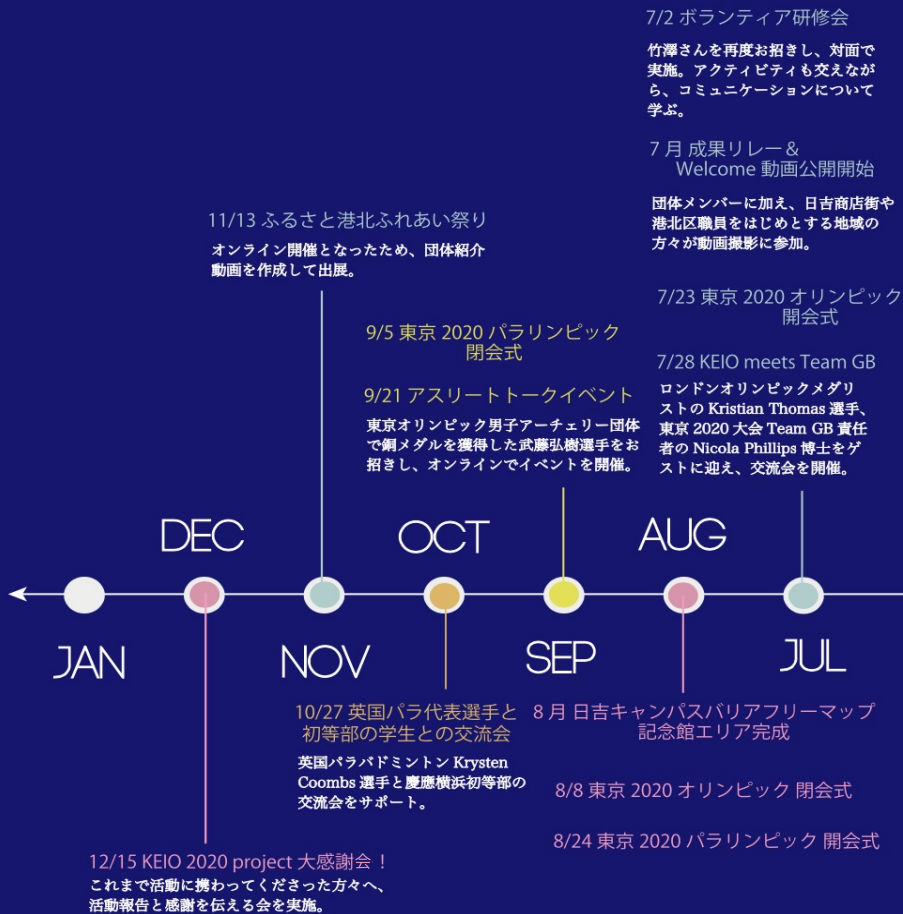
慶應義塾大学出身のトランポリン選手である棟朝銀河選手に登壇いただき、アスリートマインドについて理解を深める。

6/29 メディア展示

日吉キャンパスメディアセンターにて、事前キャンプの告知や関連図書、日吉マップの紹介などの展示を行う。

6月 WEB 版バリアフリーマップ 日吉商店街エリア完成

2020



2021



All about KEIO 2020 project

どんなメンバーが活動しているの？

2021年度は、コロナ禍の影響による入会者数の変化もあり、例年と比べると3・4年生の比率が増大しています。ですが変わらず、学年も学部も違う多様な学生が活躍しています。この団体では、それぞれの企画ごとに挙手制でメンバーを募るので、毎回新しい出会いがあったり、メンバーの魅力的な一面を新たに知ることができたり…そんな楽しみもあります。

<メンバー構成>



- 文学部
- 商学部
- 経済学部
- 法学部法律学科
- 理工学部
- 医学部
- 看護医療学部
- 環境情報学部
- 薬学部

2020以外にも活動しているの？

KEIO 2020 projectに所属するほとんどの学生が他のサークルやコミュニティに所属したり、アルバイトをしたりしながら、活動を両立させています。所属するサークルのジャンルは国際交流系、勉強系、文化系など多岐にわたることもこの団体の特徴です。基本的に、活動への参加は個人の意志に基づいているので、コミット度は学生によって違います。



2020メンバーの入会した理由は？

慶應生として自国開催のオリパラという貴重な機会に関わってみたい人、スポーツとイギリスに思い入れがある人、英語を話して活動したい人や、地域を巻き込みながらイベントを実施したい人まで、入会の理由はさまざま。学生の裁量の大きさやひとつの魅力であるこの団体で、仲間と共に自らの手で企画をつくり実行したいと考えるアクティブなメンバーが集まっています。スポーツ経験者は8割超え、イギリス滞在経験があるメンバーも多く、企画の際には自分達の経験を活かしながらアイデアを出しています。



KEIO 2020 project 内部に潜入!!

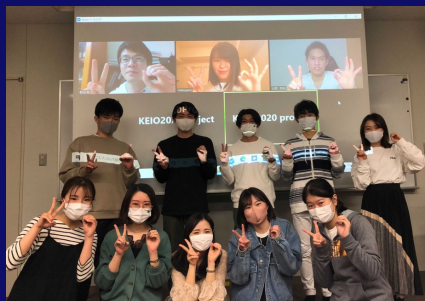
新歓活動

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、完全オンラインでの新歓となった。新入生に少しでも団体の雰囲気を感じてもらおうと、トークテーマを設定し現メンバーで語り合うゆるトーク、過去の企画についてのプレゼンを含む説明会を開催した。さらに、2020メンバーに大学生活についてアンケートを取り、休みの日の過ごし方からバイト事情、就活のことまで幅広く紹介する大学生活のすゝめも実施。2021年度は約10名の学生が新たに入会した。



普段の活動

そもそもKEIO 2020 projectとは、BOA (British Olympic Association) ・BPA (British Paralympic Association) のオリンピック・パラリンピックに出場するアスリートが日吉キャンパスに滞在する期間をサポートする塾生主体のボランティア組織で、2016年から活動している。スポーツを【する】【見る】【支える】という3つの要素を活動の柱とし、慶應義塾大学体育研究所と連携しながら各活動を行ってきた。定期的な活動は、月1回の運営委員会MTG。メンバー同士で顔を合わせながら、情報共有や新たな企画の案出しをする場となっているが、今年度はオンラインで実施してきた。



イベント

内部向けのイベントとしては、引退する4年生を送り出す3月の追いコンや、内部懇親企画が挙げられる。対面で開催したスポーツ大会では、バラスポーツ（ポッチャ・シットティングバレー）を体験。オンラインで実施した交流会では、英語を使ったゲームなどを行った。外部とのイベントとしては、講師を招いて開催するトークイベントや英国視察などがあるが、コロナの影響で今年度、渡英は叶わなかった。

▼追いコンの様子。写真撮影は2020ポーズで。



部署総括



▼アスリートトークイベント(上)と
日吉メディアセンターでの特別展示(下)



団体の円滑な運営のため活動してきた5つの部署。私たちは意思決定の効率化を優先し、状況に応じて組織体制を柔軟に変えてきました。ここでは、各部署が総括をし、活動を振り返ります。

企画部

メンバーをはじめ、塾生や地域の方々を巻き込んで、事前キャンプを盛り上げることを目的として活動してきた。コロナ禍においても歩みを止めることなく、オンライン企画や、全員が前を向ける企画を立ち上げた。英国代表選手団・メンバー・塾生・地域の方々など、企画の対象を柔軟に設定し、実施できた点は良かったと感じている。どの企画も地域の方々、講演会のゲストの方々などのたくさんのご協力のおかげで成功させることができた。

広報部

多様なコンテンツを用いてTwitter・Instagram・Facebook・ホームページ・noteの各種SNSにおける情報発信から、全12回にわたる港北区区報へのコラム掲載まで、幅広く広報活動を行う。継続的に情報発信をすることでフォーマルな広報媒体としての役割を担うだけでなく、団体の認知向上やメンバーのモチベーションアップ、オリパラを盛り上げる機能も果たすことができたと感じている。特にオリンピック・パラリンピック事前キャンプ期間中には、媒体を通して選手の反応を伺ったり、交流したりでき、目的を果たすことができたといえる。

▼スポーツボランティア研修会



部署総括



総務部

運営委員会や内部企画・会計など団体全体に関わる活動を実施する役割を担ってきた。2020年度の方針を団体全体に共有する説明会やラジオ企画・内部クイズ大会を実施。気軽に参加しながら団体の魅力を知ることができる活動を続けたとともに、団体メンバーの意向を汲み取り活動に反映させてきた。より多くのメンバーを活動に巻き込むことができたと考えられる。



未来先導部

オリンピックのサポート後について考えると共に、レガシーについて考えることを目的とし、2019年12月新体制発足と同時に新たな部署として、設立。全体MTGの場で、レガシーやオリンピック後の活動内容について話す機会を設けた。2020年7月には、レガシーをどのように残すのかをより深く検討するため、BC翻訳チーム※やレガシーリサーチ班を新たに創設し、活動した。

※国際的なスポーツイベントにおける大学の役割と機会についてまとめた、British Councilからいただいた資料（126ページ）を翻訳するため結成。

SU総括



各競技のスペシャリストから、事前キャンプ全体のサポーターへ

<具体的な活動>

- ・ボランティアハンドブック、選手名鑑の作成
- ・勉強会（スポーツボランティアの心構え）
- ・施設の把握のための日吉キャンパスツアー
- ・ひよしマップ、バリアフリーマップの使用の確認 など



Team GB
Taekwondo Athlete Profiles



▲実際に作成した選手名鑑
約40名の生徒が、合計8種目の
英国代表選手をリサーチ。

事前キャンプ部

事前キャンプにおける円滑な運営を目的として活動してきた。当初は同じ目的の下SU毎に活動していたが、新型コロナウイルスの影響で事前キャンプにおいて選手と直接関わる機会が減り、競技に特化した仕事がなくなったため、SU体制から事前キャンプ部へと移行。実際、コロナ渦におけるボランティア活動には限りがあったが、どの活動も意義があり、ボランティアに生かすことも、レガシーを新たに生み出すこともできた。

バリアフリーマップ in 日吉

バリアフリーマップとは、車いす利用者や高齢者の方々がバリアフリー情報（多機能トイレの位置や通路の段差情報など）を知ることができるマップである。KEIO 2020 project では日吉キャンパスおよび日吉商店街のバリアフリーマップを作成した。

@ 活動内容

パラリンピック選手を迎えるにあたり、少なくともキャンパス内のバリアフリー情報を整理してまとめてお伝えする必要があるのではないかという学生の意見からこの企画が発足した。メンバーは途中で卒業などで入れ替わりもありながら10名前後で取り組んだ。地図作りなど誰も経験したことがないため、とにかく最初は手探りでなかなか進捗が得られない時期も続いたが、様々な方からご意見を頂いたり実際の経験をお聞きしたりして、キャンパス内のフィールドワークを重ね、少しずつ目に見える形に作り上げていった。最初は手描きで情報を整理していた地図もillustratorで編集し、表紙のデザインなども楽しめるようなマップが出来た。

案内用図記号（ピクトグラム）一覧

地図などには、視力の低下した高齢者や障害のある方、外国人観光客も理解ができるようにピクトグラムを用いて情報を提供している。今回はそんなピクトグラムをいくつかピックアップしてみた。



障害のある人が
使える設備
Accessible facility

初めて意味を知りました。
この記号があれば、みんな
が安心して使えますね！



子どもお手洗
Children's toilet

子ども用の記号はあまり目に
したことがない気がします。
それにしても可愛い…



広域避難場所
Safety evacuation
area

記号の形で場所の区別がつく上に、上の記号は物が緑で下の記号は物が白になっていて、より区別できるようになっているのが、ものすごくありがたいです！色も緑と白で安心感を与えてくれるのも感謝です。



避難所（建物）
Safety evacuation
shelter



② 日吉商店街のバリアフリーマップ

日吉キャンパス内のバリアフリーマップに加えて、日吉商店街のバリアフリーマップの作成も行った。このマップでは、商店街内の段差や傾斜といった情報が画像で掲載されていたり、道路を異なる色の線で塗りつぶすことで各道の特徴が記されていたりするので、障害のある方はもちろんのこと、そのほかの人たちにも非常に役立つマップとなっている。



↑ キャンパス内に加えて作成した日吉商店街のバリアフリーマップの一部

③ 完成したバリアフリーマップについて

キャンパスを訪れた人や、キャンパスに行きたいと思っている人が事前に注意すべき箇所を確認するなどして、より快適な移動にぜひ役立てられてほしい。また、大会後もバリアフリーに向けた取り組みが進み、マップ上だけでなく実際のキャンパスそのものももっと沢山の人のためにフレンドリーな施設に変わっていけばと思う。結果として、パラスポーツが学内でもっと盛り上がり、これまで障がいを理由に入学を懸念していた学生が不安なく入学できるような未来につながってほしい。



WELCOME 動画

&

成果リレー



動画のリンクはこちらから



WELCOME 動画・ 成果リレーとは？

「WELCOME動画」は、コロナ禍で選手との直接の交流が不可能になってしまった分、間接的にでも“おもてなし”の姿を届け、日本での滞在を有意義な時間にしてもらいたいとの想いから立ち上げた。また、五輪に対して様々な見方があるなか、事前キャンプが行われる際には、我々は英国選手団をいちばんに支え、選手団の不安をなくし、少しでもリラックスできる環境作りを目指すために、地域と一体となって歓迎・応援している動画を届けたいと考えた。「成果リレー」は、聖火リレーとかけ、五輪の延期やコロナ禍の1年間は決して無駄ではなく、それぞれが前に進んだ1年であり、その成果を再認識し、次の希望や成果へと繋げてほしいという想いから立ち上げた。

#活動内容

五輪に対して、人それぞれ賛否両論があるなか、どれほどの人を巻き込み、情報を発信していくべきなのかについて、戸惑った。しかし、日吉商店街の方々や港北区の方々は、私たちの想いを受け止め、忙しい中でも快く企画に協力して下さった。また、たくさんの人を巻き込む必要があったため、認識のずれ違いが問題であった。そこで、書面でのやり取りに加え、Zoomのミーティングや、時には感染症対策を万全に行った対面での交流を深めることで企画を成功に導くことができた。

#感想

WELCOME動画を通して、選手に地域一体となって“おもてなし”を届けることができたと感じる。直接的な交流ができなくなってしまったが、その結果、動画という形に残る贈り物として、選手のために活動ができたことは誇りに思う。また、成果リレーを通して、コロナ禍で人との繋がりが薄れてしまうなか、「成果」のバトンをSNS上で繋げたことで、地域の輪を広げることができたと感じる。2つの企画を通して、コロナ禍によって地域の方々との交流が減ってしまった分、改めて交流を深めることができ、人と人とのあたたかい繋がりを実感することができた。この企画はたくさんの人の協力により成功することができた。感謝の気持ちでいっぱいである。



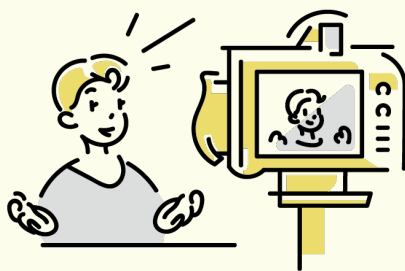
UNITE GB/UNITE PARALYMPICS

本来であれば多くのサポーターが直接声援を送り、その応援は選手が異国の地でも本来の力を発揮する助けとなっていたことだろう。しかし、今年は**コロナ禍の大会**であったためそれが難しく、選手に応援が届きにくい状況となってしまった。そのような状況だからこそ、選手がいつも通りの力を出せるような、**新しい応援**を目指して発足した企画だった。日本にいるサポーターのみでなく、イギリス現地のサポーターにも声をかけ、動画作成、そしてFarewellカードづくり等を約20日でやり遂げた。

6月25日～7月10日：動画集め

できるだけ多くの動画を集めるために、メンバーの知りでイギリスに関係のある人を頼ったり、イギリスと関係のある企業に連絡を取ったりした。動画締め切り期限1週間前の時点で提出された動画はまさかの**ゼロ**。思うように集まらず、大変な思いでしたが、動画を通して選手に熱い思いを伝えたい、選手をベストなコンディションで選手村へ送り出したいという気持ちは大きかった。

パラリンピックの際はこの反省を生かし、企業に連絡を取ったり、より早い段階から催促したりして、スムーズに動画集めを行うことができた。



～7月14日：動画編集・メダル作成・Farewellカード作成

メダル作成は当初、全く予定になかった。しかし、選手がオリンピック・パラリンピックでメダルを獲得できるように、そして日本らしいお土産がカードと一緒にあったら喜んでもらえるのではないかと考え、折り紙でメダルを折ることにした。

カードもメダルも、イギリス国旗カラーである赤や青が入る配色で作成した。

パラリンピック時には、Farewellカードはユニバーサルカラーを使用し、どのような方でも色を楽しめるようにし、動画には字幕を付けた。

Farewellカードを印刷したときは、画面で見ていたものが実際に形になっていくのに大きな達成感を感じた。



7月15日：包装作業

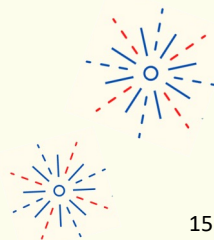
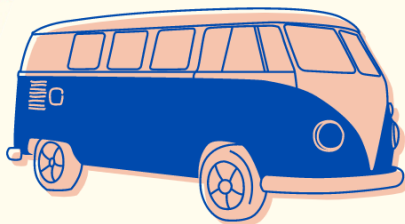
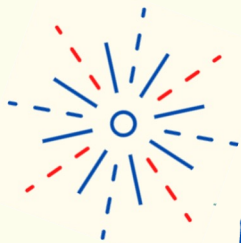
作成した応援動画にアクセスできるQRコードをメダルの真中に貼り付け、そして、Farewellカードと一緒に透明な袋に封入した。パラリンピック時には、QRコードを突起のあるテープで囲うことでどこにQRコードがあるのかをわかりやすくした。封入作業は、量も多く、大変だったが、これが選手に届く最終形だと思うと、丁寧にやろうという気持ちになった。綺麗にできたのをみて、選手たちも喜んでくれると嬉しいなと思った。



7月17日～：ついに選手のもとへ

各競技の選手が選手村へ出発する日に、競技代表の方に手渡しした。その際に、封入物の説明と、QRコードを読み取ってほしい、などの事を伝えた。

その後、動画やカードを見た選手や関係者の方からの反響をいただき、とても嬉しい気持ちになるとともに、大きな達成感を感じた。また、トップアスリートの方をこのような形で応援するという貴重な経験ができたことはとても光栄だった。そして、多くの方々に快く協力していただき、そのご協力に私どもも勇気をいただけた。





事前キャンプが行われる前に様々な企画を行ってきた私たち。このページではそのうちの二つの企画について紹介する。



① ボランティアハンドブック作成

・ 活動内容

ボランティアの知識を全員が持ち、選手のサポートを円滑に進めることを目的として進めてきたボランティアハンドブック作成。2020年5月から2021年3月にかけて、事前キャンプ部やSUメンバーに呼びかけて一緒に作成に取り組んできた。内容としては、「受け入れ競技一覧」や「ボランティアの心得」などを記載し、各競技の写真も挿入する工夫も行い、誰もが見やすいハンドブックになるよう心がけた。「事前キャンプを通じて、準備の大切さを実感し、少しでも本番を迎えられる体制づくりに貢献したい」、「有形レガシーを残したい」という熱い思いを持ったメンバーとともに、一致団結して活動した。

・ 感想

各SUに協力をお願いする形をとっていたため、全SUの取りまとめやコミュニケーションが難しい点であった。一方で、見やすいボランティアハンドブックを作成したいというメンバー内の共通認識のもとでいろいろなアイデアを出し、協力して作成できたことは、他者との協力の大切さを学ぶことにつながった。スポーツボランティアとしてボランティアの基礎を学び、スポーツに貢献できることは、貴重な経験であったと感じている。

Volunteer Handbook

「する」「観る」「支える」をモットーに
事前キャンプを成功させよう！！



令和3(2021)年7月



KEIO 2020 project
慶應義塾大学体育研究所



↑ボランティアブックの表紙

② メダル制作

TeamGBを選手村へ送り出し、ParalympicsGBの来日が迫っていた8月上旬に、「折り紙メダル」をぶら下げた展示台を協生館と記念館内でパラ選手の目に留まりそうな場所に設置した。100個の折り紙メダルは、パラ選手と直接関わることができない代わりに、選手が手に取り、持って帰れる折り紙メダルで応援するために、慶應義塾横浜初等部の小学生達が作ってくれた。イラストや英語の手紙が添えてあるものもある。このメダルを自身のSNS上に載せてくれた選手もいた。



THE PRE-GAMES TRAINING CAMP STARTS !!

オリンピック・パラリンピック事前キャンプの記録



Olympic
Paralympic.

July. 10th ~ July. 22nd
Aug. 13rd ~ Sept. 2nd

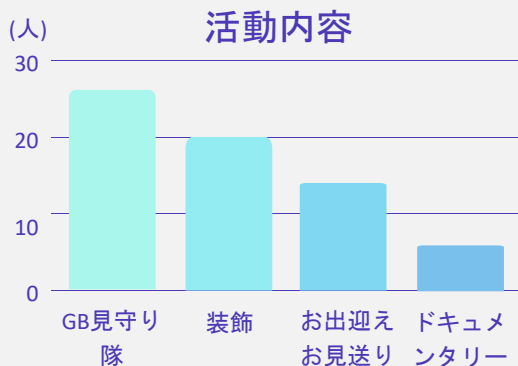
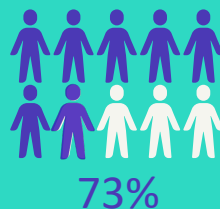


事前キャンプデータ

コロナ禍で迎えた事前キャンプで、メンバーはどのように活動し、何を感じたのか。そのリアルを知るため、団体メンバー74人にアンケートを実施しました。
(2021年9月実施)

事前キャンプにおける活動の有無

6月中旬～9月中旬にかけてのオリンピック・パラリンピック期間中（事前キャンプ準備～撤収作業まで）において活動に参加できたのは、全体の73%
この期間だけで、学生同士や職員など様々な交流が生まれ、新たな仲間と、直接会って楽しく活動ができたのは嬉しかったという声が多くありました。



※GB見守り隊・キャンパス内を歩く英国選手が一般の方と接触しないように見張る仕事。距離を取る必要があるが、選手を間近で見たり、直接挨拶を交わしたりできるのが魅力。

メンバーの役割

アットホームな環境で快適に過ごしてもらい、選手村へ良い形で送り出すことを目標とし、選手と直接触れ合うことが難しい中でも、工夫を凝らして活動。キャンパスの装飾、応援動画制作、交流企画、選手のお出迎えやお見送りなど、多様な角度から選手をサポートしました。

全ての活動は、メンバー同士の意見交換や試行錯誤を経て実現したものです。それぞれが自分のスキルを発揮し、最善を尽くすことができました。

ホストタウン功労者感謝状をいただきました！

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局より、ホストタウン交流の推進に関し極めて顕著な貢献をした団体ならびに個人に贈られる賞を受領。7年間に及ぶ、KEIO 2020 projectの様々な取り組みがこのような結果に結びつき、メンバー一同嬉しく思っています。





結成“GB応援隊”！！



GB応援隊は選手が事前キャンプのため日吉キャンパスへ初めて訪れた際のお出迎え、日吉から選手村へと向かう際のお見送りを行うために組織されました。バスに乗る選手に対して、応援メッセージや選手の名前が書かれたボードを掲げたり、英国の旗を持ったりして選手を応援しました。オリジナルで作った法被を着てお見送りをする学生もいました。日吉キャンパスに初めてきた選手は長旅の疲れがありながらも親切に手を振ってくださっていました。お見送り際には英国チームのファンからのメッセージ動画を同封したメダルを渡し、選手やスタッフの方からコメントを頂くこともありました。お出迎え・お見送り終了後には、選手がSNSに学生が応援する様子をあげているのを見て、学生たちはとても喜んでいました。印象に残っているのは学生が手を振る際に近くを通りかかった子供にも旗を渡して一緒にお見送りした時です。

事前キャンプに参加したメンバーの声

選手のお見送りの際に、選手の方々の「ありがとう」という声を聞くことができたり、笑顔を見ることができたりしたことが印象的で、とても嬉しかった。

2019年の事前キャンプとは全く異なる状況下・活動ではあったが、最終的に選手を良い形で送り出すという目標を達成できたと思う。

相手（イギリスの選手）の立場にたって、何をしたら喜んでもらえるのかを考えるということはとても学びになった。

1人1人が小さな目の前の業務に対して、意志や責任感をもって取り組んで、それが積み重なって、イベントの成功につながることを学んだ。

パラスタッフの方が「チームを支えてくれる人も全員チームだと思っている」と言っており、選手団は「チーム」をどれだけ重要視しているかが印象的だった。

～ 装飾紹介 ～

イギリス選手団が日吉キャンパスで事前キャンプを行うにあたり、私たちは新記念館および協生館の装飾を行った。今回はそれらの装飾を種類別にそれぞれ紹介していく。

やる気👏👏 『トレーニング直前ゾーン』

1. 協生館競技場入り口

競技場入り口は、イギリス国旗の赤・青・白を基調にラップフィルムとガラス絵具で作ったスタンドグラス風シールと、アルファベットバルーンで装飾した。ガラスは、競技場に足を踏み入れる直前の選手の気合が入るようにビッグ・ベンやイギリス近衛兵など、故郷を彷彿とさせるモチーフをあしらった。アルファベットバルーンは人が映れるスペースを残してSNS映えを狙った。パラリンピック期間中は見え辛い選手や車椅子目線でも楽しんで欲しくて、鮮やかな英国旗を下方にも貼り足した。ガラス装飾も風船もキャンプ中剥がれず持ちこたえてくれた。記念写真をSNSにアップしてくれた選手がいて嬉しかった。

2. 新記念館入り口

新記念館入り口には、ここでトレーニングを行う選手達の気合が入ることを願い、和紙を用いたちぎり絵で大きな『GO GB!』の壁紙を作成した。和紙を用いて英語を表しているため、日本の文化と英国の文化が入り混じった装飾であったので、選手たちの反応を実際にこの目で見てみたかった。



ほんの一時『リラックスゾーン』



1. 新記念館1階

新記念館1階は英国選手団の方たちに日本の文化を体験し、楽しんでもらえるように折り紙やけん玉、こまといった伝統遊戯や、書道体験コーナーを設置した。また、コロナ禍で外に出られない中で少しでも日本を観光した気分を味わってもらえるように、日本の観光地と横浜・日吉エリアの写真ブースを設けた。実際に選手が漢字を書いた半紙があり、その形のぎこちなさが懸命さを感じさせ、心が和んだ。

2. 協生館7階

協生館7階は選手が宿泊する場所だったため、選手が楽しみつつもリラックスできる空間にすることを心がけた。そこで、日本の伝統的な遊びを体験できる日本文化体験コーナー、協生館から見える景色を紹介する風景カード、ロンドンバスをモチーフにした応援メッセージシートなど母国を感じられる装飾を施したイギリスコーナーを設置した。日本文化体験コーナーでは、けん玉で選手がポイントを競いながら遊んでいた様子が見受けられ、楽しんでもらえて嬉しかった。



ちよいと記念に『フォトジェニックゾーン』

1. 協生館2階入り口

英国選手団を最初にお迎えする場所だったため、歓迎の気持ちを伝えるべく、華やかで温かい雰囲気することを心がけた。そこで、日本滞在の思い出を残すことができるフォトブース、待ち時間にも気軽に楽しめる折り紙遊び体験コーナー、日本の夏の文化に触れられる装飾を設置した。手先を動かしながらリフレッシュする機会を提供できるよう工夫した折り紙体験コーナーは多くの選手に楽しんでもらえたようで、嬉しかった。



Team GB交流会

すぐそこでイギリス選手達が練習をしているのに、コロナ対策のため学生が選手と関わる事ができないまま選手村へ発ってしまう状況に悶々としていた。何かできないかと模索していた最中、BOA側からオンラインでの交流を提案して頂き開催に至った。

Q&A



Q. フェアウェル動画や装飾についてどう思いましたか？

A.

Kristian

選手たちは、看板、横断幕、そしてビデオを、すごく喜んでいました。今回は、家族や友人が近くで応援できない状況下でしたが、応援されている、歓迎されていると感じることができ、トレーニングにも集中できたと思います。選手を代表して、感謝させていただきます。

Nicola

私も同じことを言いたいです。いろいろ準備していただき、ありがとうございました！特に協生館でけん玉やトントン相撲などで選手やスタッフが真剣になって遊んでいたのがとても面白かったです。このような小さな日本らしさが、日本にいるという実感を与えてくれました。

Q. なぜ事前キャンプ地に慶應を選んだのですか？

A.

Nicola

偶然の縁がきっかけでした。王室の第一王女が、日本の皇室関係者の1人が慶應大学出身であることをご存じで、そこから慶應大学が初めて紹介されました。そして私たちの求めていた要件全てを満たしていた、という所からあなた方の大学が第一候補に挙がったんです。Team GBは、相当こだわって事前キャンプ地を決めました。そのため、あなた方は、自分自身を誇っていいと思います。大学としてそういった施設があることや、関わりたいと思った人たちがたくさんいることは素晴らしいことです。

Q. オリンピックの延期についてはどうお考えですか？

A.

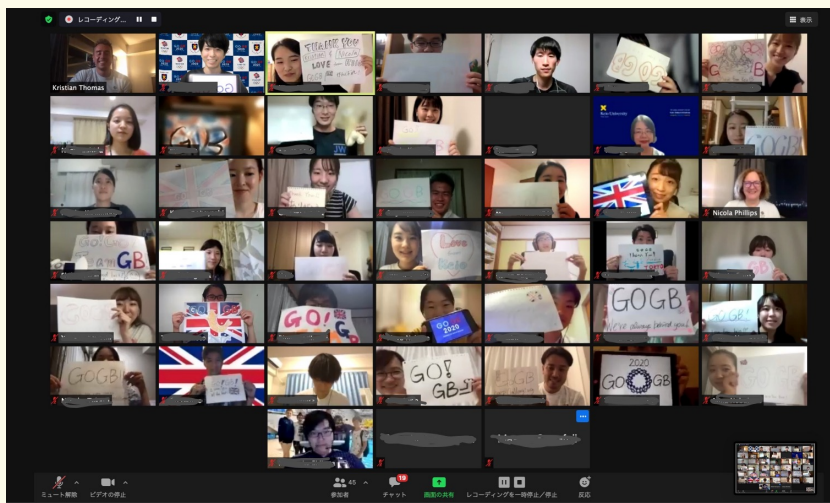
Kristian

そうですね、これは事前に答えを準備しておいたら良かったかも笑

選手たちと話して感じ、そして自分がまだ現役だったとしたら、まずはオリンピックが開催されていることに感謝しています。制限もたくさんあって、規模の小さな開催になりましたが、ほとんどの選手は競技をすることができるだけでありがたく思っていると思います。ある選手にとっては最期のオリンピック、はたまたある選手にとっては初めてのオリンピックだったりします。どちらにせよ、すべての選手がこの大会に向けてとてつもない努力をしたのは確実です。そういう意味では、開催してよかったですと思います。

Nicola

スポーツやそれにかかわる人からするとオリンピックは世界中の人が集まるスポーツフェスティバルのようなものです。大会の開催を実現できた東京都はとてもすごいと思います。さらに、安全を徹底して実施できたのはすばらしいです。遅延をして難しい期間を経験しましたが、オリンピックに参加できること自体が大変すばらしい機会です。私たちもPCRテストをたくさんうけており、この大会を安全に終わられるように努めています。東京オリンピックでは日本の人びとが開催できるようとても真摯に働いてくれたと思います。そこに感謝をし、また、このような状況でもスポーツを楽しみたいと考えています。



▲交流会のラスト、サプライズで応援動画を見てもらったのちに、参加者全員で応援メッセージを送った時の様子。

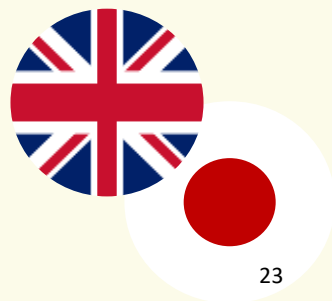
参加して下さった方

Kristian Thomas さん (左)

元体操選手。ロンドンオリンピックでは銅メダルを獲得したすごい人。

Nicola Phillips さん (右)

イギリス選手団の東京2020オリンピック事前キャンプの最高責任者。



五輪(スポーツ) × 慶應 × コロナ禍 アスリートトークイベント

事前キャンプ後の活動

経験をも未来へつなぐ

<トークセッションの内容>

- ・アーチェリーの魅力
- ・東京2020大会アーチェリー男子団体で日本を銅メダルに導いた瞬間の裏話
- ・自分自身との向き合い方
- ・目標の立て方と実現方法

「様々な制限が課される中で、各々が自らのできることを考えプラスに動いている」という共通点があるアスリートと塾生が交流することで、東京大会を未来へとつなげる企画。9/21(火)に、慶應義塾大学出身で東京五輪アーチェリー男子代表の武藤 弘樹選手をお招きし、開催した。武藤選手は参加者1人1人の質問に丁寧に答えてくださり、温和な雰囲気の中、素敵な時間を過ごすことができた。

企画メンバーの声

自分たちの考えたことが形になったことに加えて、イベント後に嬉しい反響をいただき、自信につながった。同じ思いをもつメンバーと試行錯誤を重ねたからこそ、より達成感が生まれると感じたので、やりたいと思ったことを1人ではなくみんなでできる環境づくりが大切だと学んだ。



港北区民まつり

港北区で活動している団体として、どのような活動を行っていたかを発表する場を設けていただいた。当団体は2018,2019年も出展させていただいている。オンライン開催になってからは初めての出展だったが、多くの方に当団体のページをご覧いただけた。



主な出展内容としては、当団体の紹介や事前キャンプにおける取り組み、日吉商店街の方にご協力していただき作成した Welcome動画の紹介など。

BRidGe

💡どんなプロジェクト？

BRidGeは2020年4月に各大学のオリパラ関連団体によって結成されたプロジェクト。各団体のノウハウ共有、連携企画を通じた知名度向上を背景に設立された。早稲田、上智、立命館、立教、明治学院、そして、慶應の6団体により組織されている。



💡活動内容を教えて！

月に1回ペースで、計12回の交流会と3回のイベントをオンラインで実施してきた。9月に行った最初のイベントは、2日間をわたりクイズ、マップ作成、講演会をコンテンツとする大規模なイベントとなった。コロナ禍で各団体が悩みを抱える中、励まし合うような場として機能した上、大学間の連携企画が注目を集めたことで、メディアを通じた知名度の向上にも繋がった。

交流会開催／ Krysten Coombs選手 × 慶應横浜初等部

選手団の練習場所に飾った折り紙メダルを見たクームス選手が、直接選手と関わることができない生徒たちの気持ちに伝えてくださる形で会が実現。交流会は、選手への挨拶と銅メダル獲得のお祝いから始まり、その後、クイズ大会やQ&Aセッション、選手からエクササイズを教えて頂くなど盛りだくさんの内容となった。400名を超える小学生が参加し、1週間前に小学生とリハーサルを行った甲斐もあり、とても有意義な交流会となった。

10月27日(水)に英国パラリンピックバドミントン代表のクリステン・クームス選手と慶應義塾横浜初等部の小学生の交流会を開催。交流会のきっかけとなったのは、横浜初等部の生徒たちが英国パラ選手を応援するために折り紙で作成したメダルだった。

▼交流会の企画メンバー



▼交流会の様子



企画メンバーの声

大きなイベントを成功させるには、事前の細かい準備と確認、打ち合わせなど、企画メンバーそれぞれが自分の役割を全うし、かつお互いに補い合っていくしかないといけないと強く学んだ。

広報よこはま 港北区版コラム掲載

港北区の担当者の方よりお誘いを受け、地域の皆さんに事前キャンプをより身近に感じて頂き、もっとオリパラを楽しんでもらうためにコラム連載を開始し、2019年から2021年まで、計12回にわたって執筆。

たったひとつのコラムでも、その掲載までには沢山の工程があった。まずテーマを決めたら、取り上げるトピックを選び、どんな内容にするか具体的に検討して、文章を書き、写真を選ぶ。さらに、より伝わりやすく楽しいコンテンツにするために港北区の担当者の方と何度も修正を重ねた。時折苦労したが、「読み手を常に意識する」ということは大きな学びになったうえ、その後のあらゆる発信においても役に立ったと思う。

誰でも読みやすい文章で、KEIO 2020 projectだからこそ届けられる情報をお伝えするように心がけていた。ただ事実を伝えるだけではなく、どんな想いでメンバーが活動に取り組み、どんなコミュニケーションがあったのかなど、選手やスタッフの方をより身近に感じてもらえるよう工夫した。写真の選定にもこだわって、パッと見て心がちょっと温まるような一枚を選んだ。

▼メンバーがこだわって選んだ写真を一部ご紹介！



2021.12.15

KEIO 2020 project 大感謝会！

開催の目的

- ①これまでKEIO 2020 projectに携わって頂いた方々に5年間に及ぶ活動を報告することを通じて感謝の意を表す。
- ②活動を広く発信することで、レガシーを創り出す。



本イベントの企画メンバーだけでなく、KEIO 2020 projectに所属する学生全員で感謝の気持ちを伝えるため、多くのメンバーがメッセージ動画や寄せ書きの作成に携わり、感謝の気持ちを届けることができたと感じている。当日は、これまでお世話になった約40名の関係者の方々が参加。



これまでの企画に協力いただいた皆さまだけでなく、KEIO 2020 projectを応援して頂いているすべての皆さまに向けて感謝を伝えたいという思いで、企画メンバーは10月より準備を進めていた。当日は、学生メンバーによる5年間の活動報告、共同代表3名による挨拶、学生からのメッセージ動画“Thanks動画”のお披露目など盛りだくさんの内容で、1時間のイベントは盛況のうちに終了した。

Scoop!

会の終盤には、慶應横浜初等部の皆さまからの色紙をはじめとする関係者の方からのサプライズプレゼントも。メンバーにとっても非常に感動的な会となった。

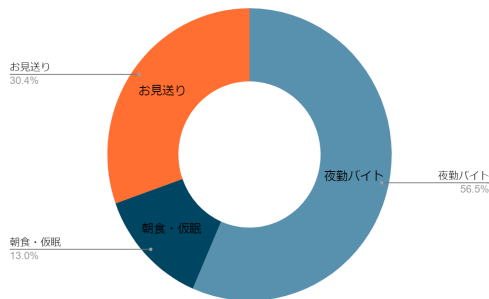


一番忙しかったのは誰?!

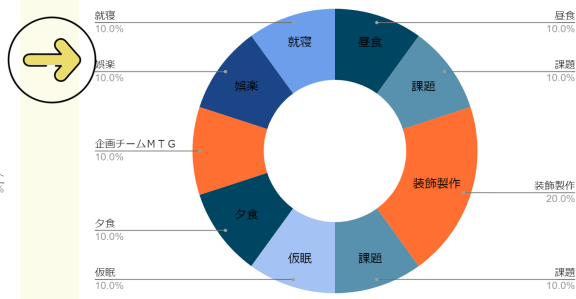
～代表の一日～

事前キャンプ中、KEIO 2020 project 代表のゆうさんとあゆさんが忙しそうにしていたこと、皆さんも記憶に新しいと思います。そんな彼らの一日に密着しました。

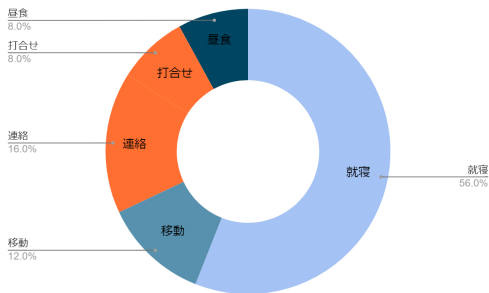
鮎さん (午前)



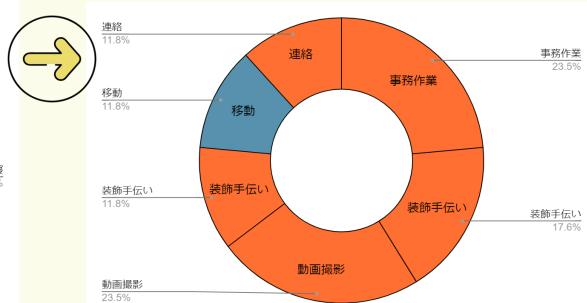
鮎さん (午後)



ゆうさん (午前)



ゆうさん (午後)

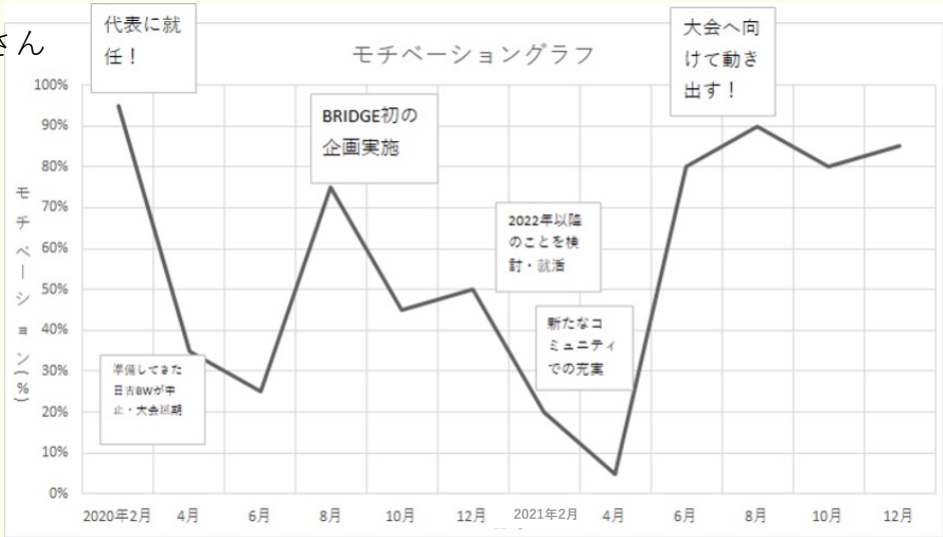


信じられないくらい忙しく、KEIO2020project
のことばかりやっていたんですね…。
お疲れ様です、ありがとうございました!

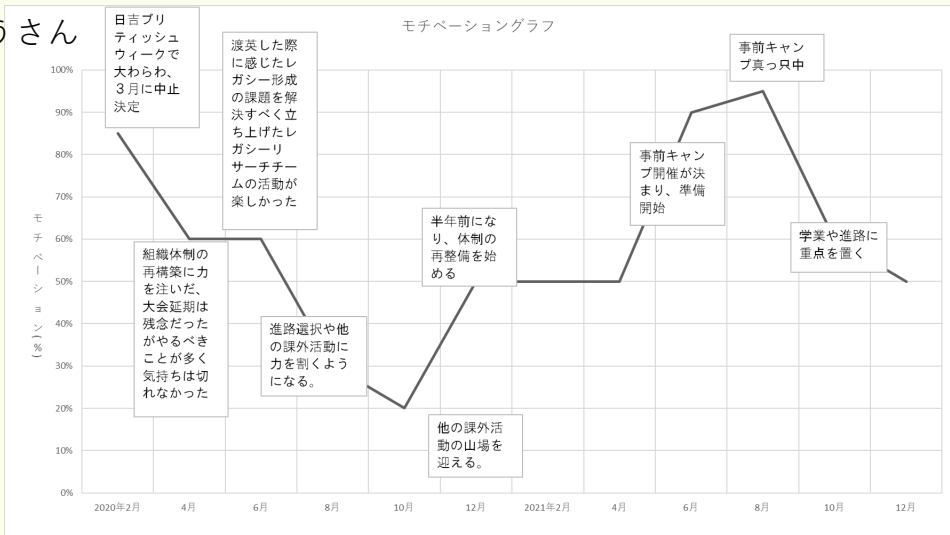
どんなモチベーションで この一年すごしてた？

東京2020オリンピック・パラリンピックは、異例の1年延期となりました。
団体を引っ張ってきた代表2人はどのような心持ちだったのでしょうか？

鮎さん



ゆうさん



やはり、延期でモチベーションは下がりましたよね…。
それでも素晴らしい事前キャンプにするために、リーダーシップをとってくださり、ありがとうございました！！



代表インタビュー

鮎澤誠二×杉山佑

事前キャンプも終わり、活動がひと段落ついた2021年11月。
KEIO 2020 project 共同代表として団体を引っ張ってきた、鮎澤誠二さん(商学部3年)と、杉山祐さん(理工学部4年)にお話を伺い、団体の活動を振り返ってもらいました。

ふたりのリーダーの
チームの動かし方。

「早速ですが、それぞれ、どんなタイプのリーダーですか？」

杉山 まあ、結構、頭で考えたがる人で、基本めんどくさい人。

「あゆさんは？」

鮎澤 自分は割と頭で考えるよりも、とりあえず行動してみて、自分の目で見てみて、それから考えることが圧倒的に多いなと思ってます。

団体の難しく考えないといけないところは杉山さんにまかせっきりで、でも他の、特に3年生とか2年生のアクティブに動いているメンバーをつなぐ役割みたいなのをしてたっていうのが大体の役割かなって。

杉山 多少お互いそういうの得意であったかもしれないけど、結局こういう体制だったのはオンラインになってからだね。

オンラインになる前は、もうキャンパス中走り回ってた記憶あるから。

「お互いの印象ってありますか？」

鮎澤 杉山さんのファーストインプレッションは堅苦しそうで、真面目そうで。ザ・頭いい大学生って感じ。

色々話してみると案外くだけたところもあったんですけど、でも考えは深く鋭い人だなと思ってます。

杉山 自分で突っ走りたい奴だなって感じ。休みなよって言っても全然休まない。これやったことあるんです！って言いながら、ずっと頑張ってたなあという記憶があるな。

杉山 あとは、2019年9月のレガシーワークショップあたりで、もともと企画メンバーに入ってたけど、こうしたいとか、懇親会やりたいみたいなのを言っていて実際にやってくれた人だけ。

そういう意味では自分でやりたいって言うてくれる人だなと。

鮎澤 そうですね。せっかくなら、仲良くないないなあと。

杉山 しつかり行動に強いところは最初からあったんじゃないかな。



▲懇親会を企画してくれたあゆさん。この日は1・2年生メンバーでポッチャとシittingバーを楽しみました。

「ゆうさんはどうやって周りを巻き込むタイプなんですか？」

杉山 環境を作る。やりたくなるようなもの。ちろん、ひとりひとりにアプローチするのもいいけど。

例えばとても良い機会があったらさ、人って飛びつくじゃん。そういう感じで、その人だけじゃなくて、周りの環境を、よりその人が動きやすくする。

その人が次に何かしなくなるように、環境をととのえていくという方も大事だなと思ってる。だから余計難しいことを考えるようにするんだけど。組織のことも。

連絡も、より簡単になればなるほど、わかりやすくすればなるほど、みんな動きやすくなる。そうするとやってうちにやる気も出てくるから。そこが少し意識してやってるところだったと思います。

「こんなにワクワクすることがあるよとか、自分で好きなようにやれるよとアピールするとか？」

そうだね。好きなことやれるよというのもそうだし、実際にそれをやれるようにしてあげる。

何もないところからやるって難しいじゃん。でも、ある程度リソースとか機会があれば、やるハードルが下がるから。

鮎澤 0を0・1にして渡すって感じですね。

杉山 でも、時々人を見てないんじゃないかといわれることもある笑

「お互いに対して何か言いたいことありますか？この時、実はちょっと怒ってましたとか」

鮎澤 怒った時はしよっちゅうありましたけど。要求がめっちゃめっちゃやんで。そんなキヤバ残ってないです、って笑

でもまあ、自分と価値観が全然違う。一緒にリーダーをやって、かなり学ばせてもらう部分があったので、そういう意味では、超お世話になりました。

「めっちゃくちゃな事を要求してたんですか？」

杉山 全然記憶にない笑。そんな俺、違うと思ってるないし、はつきりいって。

「あ、そうなんですか。それも反対。」

結局、多少違いはあれど似たもの同士だと思う。

鮎澤 まあ、リーダーに対する考え方が違う。

杉山 ちょこっとだけね。

「ゆうさんはあゆさんを育てようとしていたんですか？」

杉山 育てようとかそういう認識はあったよ。だって大変だもん。

鮎澤 リード持たれてた、たぶん笑

杉山 いろいろやりたそうだったし、きつかけがあれば普通にやるから。半分育てる半分育つみたいな感じじゃないかな。

育つたなんておこがましいこと言えないけど、育ててもらったって思ってるんだつたら、俺は育てたことがあるんだらうね、結果。

それこそ本当に最初の最初からもう、上とか下とか関係ないという、そんな感じだったと思う。

自然体な人。
忙しい⇨充実と感
じられる人。

杉山 たぶん違うとしたら、いつが辛かったり忙しかったりしたって感じるからでしょ？

鮎澤 忙しかった時期と辛かった時期は違いますけど、忙しかった時期はこの前の6月。

団体的に辛かったのはたぶんコロナになっやすくじゃないですか。

杉山 たぶんそこ違うんだよね。うん、そこあんまり辛くなかった。
まあその頃は確かに辛い時期だったけど、余裕があったから、時間の。

個人的には2年ときの代表の前半がすまじかった。新歓3ヶ月やって、その間にメンバーが2000人ぐらいいって。けど、それに全然体制が追いつかなくて。なんだかんだ人が離れてくみたいな時期がいちばん辛かった。

鮎澤 自分は忙しいのは辛くないんですよ。忙しくしたいのにヒマなのがつらいんですよ。

杉山 忙しくしたい人多いよね、この団体。全然わかんない。ヒマならヒマで楽しいじゃないね笑

―自分自身に対してや、団体に対して、今まで言えなかった葛藤はありましたか？

鮎澤 自分の葛藤だと、これは多分、人にもよるんですけど、自分はフットワーク軽く、いろんな企画を数こなしていきたい思いは結構強かったんで、コロナで、制約がかなり大きかったというのは大きな葛藤だったりとか。

4年生の活動量が減ってきて、3年生が上について、2年生が声が出しにくいみたいな状況だった時には、動きにくいなあっていう葛藤はありました。コロナっていうのもあってより感じてた部分かなあ。

事前キャンプ期間中と言えば、自分たちも動ける場所があるけど、なかなか時間取るのも難しいし、責任を持てる部分も限られてくる。
いろんな葛藤を感じながら、リーダーとしてだったり、団体の一員としてだったり活動してたかな。



―ゆうさんは？

杉山 自分のことだと、人に気持ちを伝えるのが苦手です。あと感じるの苦手です。

人がどういふ感じを持っているかということを抑えるのが得意ではない。
で、自分も伝えるのが得意ではない。

それこそ環境をつくることによって人を焚きつけることはできるけど、それをいい塩梅に止めたりすることはできない。

団体の方として多分一番難しかったのは、ゴールが見せられない。

要は事前キャンプというものが何なのか、全然みんなわかってないけど、がむしゃらにやるしかなくて。いろいろシツチャカメツチャカになっちゃうけど、なんとか頑張ってるねみたいな感じになる。

でそうするとまあ、ある意味最終的には、言い方悪く言えば、みんなのやりたいことに終始するので、なかなか統一感が持ちづらいのが難しかったなあ。

―結果的には満足してますか？

杉山 満足できてる。あれだけ、イギリスの人にも喜んでもらえたし、大学内でも反響は大きかった。外部の人たちの反応も明らかに良かったというところは確実に。

学生の人たちも、みんながみんな活動に参加できたわけではないが、団体の趣旨としての事はやりとげたなって。

鮎澤 自分はぶっちゃけ言うと、団体としては満足してますけど、個人としては全然満足いく結果ではないなあっていうのが感想で。

さっき言った通り、結構葛藤の方が多かったと思いますし、100点満点中で言うと30点くらい。

―低いですね。

鮎澤 まあコロナっていう外部要因もあつたんですけど、自分と向き合う時間がたぶん少なかったからか、結局、自分のリーダーとしてやりたいことはなんだっただらうって。

振り返ると、あんま達成できてないのかなっていうふうに思ってます。でも、団体としてはかなり満足だったかなと思います。

杉山 すごい一途だよな。

―何に対してですか？

杉山 何かやろうと思ったことに対して一途だなと。

結構そういう人多いんだけど。この団体に。

俺はどちらかって言うところ、ほかの人に言われるんだけど、まあこのぐらいいいっていったところは結構あるから、なのでよくやったんじゃないか？満足、って感じですよ。

みんなの生き方が自由なのが、この団体らしい。

—この経験を今後はどう活かしたいですか？

鮎澤 ずっと一年生から走り続けまくってるので。

2年生の冬になって団体が落ち着いて一回ペースダウンした時に、自分と向き合う時間がちよつとあったんですけど、それまでなかなかなかったんです。定期的に自分を振り返る時間とか必要だなと。

リーダーとか組織を動かす側って、めちゃめちゃ多忙になってしまいがちで、改善するタイミングを失うとかあるので。そういうタイミングを今後設けていくべきなんだなという風に思いました。

—ゆうさんがこの経験から学んだことは何ですか？

杉山 チームとして何かやるってことは、すごい学べたことなんじゃないかなと思う。

結局、最大200人とかいったときもあるし、その人たちを引っ張っていく。チームで何かをして残していく。そういうことは意外といろんな人ができないことなので、それ絶対活きてくるなど。

組織にも100人の壁とかあるし。

5人くらいの班単位とか、その反対で、クラス単位の30人とか、そういうのとはまた全然違う動かし方している。

しかも、ただの課外活動、本当にみんなちょっとよこ関わりたいだけなんだけど、そんな中で、どうやって団体として、みんなにとって楽しく、やりがいのある空間にしていけるかというの、生きてくんじゃないかな？ スキルとか感覚とか。

—どんな感覚ですか？

杉山 第六感みたいなの。ああ、このチーム、今ここがやばいなとか、このままいくとうまくいきそうだなとか、そんな感覚。なかなか言葉にできないところだけ。

環境をつくるに限らず、例えば誰か1人に対しても、この人はダメになっちゃうかもとか、この人はこうなったら上手くいくなとか。

人に対して見る目ができて、その人との関係性とチームがうまくいくように導けるようにする勤とか。それは今後生きてくと思う。

—団体のメンバーについてはどう思いますか？

杉山 こうなって欲しいとか別にないかな？

みんな好きにやってくれい！って感じだけど、好きにやって、またどこかで会う日があればいいな。

そのぐらいかな、うん。逆にそれがこの団体っぽいって思うけど。

鮎澤 自分が強いて言うなら、この団体とか事前キャンプに関わったよという事を色んな人に話してほしいと思います。

この思い出を色んな人に話したら、この団体の価値が上がっていくのかなって。活動をやってきてよかったってみんなが思えればいいなと思ってるんだ。

杉山 そうだね。学生時代のよりどころのひとつとしてとらえてくれると、それはそれでいいのかなあと。

まああととは皆さんそれぞれがんばっていきましようという感じで。

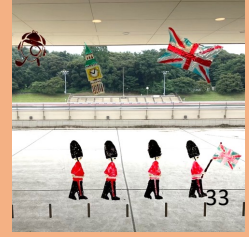
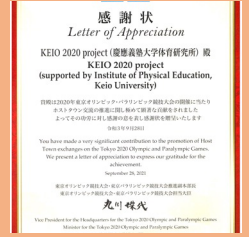
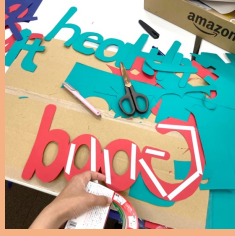
鮎澤 理想を言えば、スポーツの現場にかかわってほしいんですけどね笑
冗談ですけど。

杉山 それはあゆさくさんの感想として。笑

鮎澤 断定はできないですけど、自分はスポーツの現場に何かしらの形で関わるので、みんなも何かしらに関わってくれたら笑

まあでも、それぞれ生き方が自由なのが、この団体らしいんじゃないかなと思います。







活動の振り返り、楽しんでいただけたでしょうか？この一冊を通して、KEIO 2020 projectについて、少しでも多くの方々に知っていただけたら嬉しいです。

2021年度は待ちに待った事前キャンプが行われ、今までの集大成といえる年になりました。コロナウイルスに負けず、万全の体制でイギリス選手団をサポートできた私たちの活動が、レガシーとなり、次の世代へ受け継がれていくことを願っています。

これまでKEIO 2020 projectの活動にご協力してくださった皆様、そして関係者の皆様、本当にありがとうございました。

皆様の今後の人生にとってこの活動が、大切な宝物となれば幸いです。



Fin.

YEARBOOK 2022 Phase #3

制作班

3年

杉岡由貴 Yuki Sugioka

2年

後藤日向子 Hinako Goto

1年

首藤環 Tamaki Sudo

高柳亜弥斗 Ayato Takayanagi

文章協力

4年

大類なをみ Naomi Ohrui

杉山佑 Yu Sugiyama

佐保田美和 Miwa Sahoda

齊藤里菜 Rina Saito

楠本記子 Noriko Kusumoto

2年

割田千咲 Chisaki Warita

3年

鮎澤誠二 Seiji Ayusawa

梶愛莉 Airi Kaji

河原彩乃 Ayano Kawara

林ことみ Kotomi Hayashi

竹内しおり Shiori Takeuchi

特別協力

体育研究所 (Institution of Physical Education)

所長 石手靖 Yasushi Ishide

専任講師 稲見崇孝 Takayuki Inami

専任講師 福士徳文 Norifumi Fukushi

助教 東原綾子 Ayako Higashihara

助教 寺岡英晋 Eishin Teraoka



Website :

Facebook : KEIO 2020 project

Instagram : @keio2020project

Twitter : @KEIO2020project



KEIO 2020 project